



## 2025年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月12日

上場会社名 株式会社CSSホールディングス 上場取引所 東  
コード番号 2304 URL <http://www.css-holdings.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水野 克裕  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 岩崎 善彦 TEL 03-6661-7840  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年9月期第3四半期の連結業績（2024年10月1日～2025年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期第3四半期	14,447	8.6	613	1.3	636	1.4	369	△6.3
2024年9月期第3四半期	13,299	21.8	605	127.3	627	109.3	394	68.2

(注) 包括利益 2025年9月期第3四半期 425百万円 ( 2.2%) 2024年9月期第3四半期 416百万円 ( 50.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年9月期第3四半期	73.71	73.34
2024年9月期第3四半期	78.94	78.21

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年9月期第3四半期	6,008	2,921	48.6
2024年9月期	5,931	2,674	45.1

(参考) 自己資本 2025年9月期第3四半期 2,921百万円 2024年9月期 2,674百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年9月期	—	10.00	—	20.00	30.00
2025年9月期	—	15.00	—		
2025年9月期（予想）				30.00	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日（2025年8月12日）公表いたしました「期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

### 3. 2025年9月期の連結業績予想（2024年10月1日～2025年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,230	9.1	657	10.2	684	8.6	505	17.9	101.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無  
新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年9月期3Q	5,285,600株	2024年9月期	5,285,600株
② 期末自己株式数	2025年9月期3Q	270,008株	2024年9月期	291,008株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年9月期3Q	5,010,207株	2024年9月期3Q	4,994,630株

期末自己株式数には、株式給付信託が保有する当社株式 (2025年9月期3Q 125,600株、2024年9月期末 125,600株) が含まれております。また、当該信託が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。(2025年9月期3Q 125,600株、2024年9月期3Q 125,600株)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人の四半期レビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている今後の業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 当四半期の経営成績に関する説明 .....	2
(2) 当四半期の財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(会計方針の変更に関する注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	10
(重要な後発事象) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 当四半期の経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、地政学的リスクの高まりや原材料・労務費の高騰、米国の関税影響など先行き不透明な状況が続く中、海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクとなっているものの、各種政策の効果もあり、雇用・所得環境が改善する中で、緩やかに回復してまいりました。

このような環境下において当社グループは、今年度から第5期となる新たな3ヵ年中長期経営計画をスタート、2024年12月には「2025-27中期経営計画 “Go Beyond! Next20”」を発表いたしました。2027年9月期の連結業績目標を売上高270億円、営業利益9.5億円、ROE15%以上とし、『資本効率を高める投資の強化』をテーマに、事業開発戦略として、既存事業組織における基盤強化と収益力の向上と、新たな提供価値の創造をミッションとするXvalueユニットの活動を、相互に関係しながらも独立して二軸で成果を追求することを掲げています。

この第3四半期は、当社フードサービス事業が受託する調理現場において、先般戦略的パートナーシップを発表したTechMagic株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役：白木裕士）の次世代炒め調理ロボット『I-Robo 2』が活用されている状況が生まれたり、第2四半期終盤に大阪うめきた地下にアジア初進出オープンをした3000平米の大規模フードコート「タイムアウトマーケット大阪」では全店舗の什器を可能な限り共通化しながら一ヶ所で集中洗浄する運用が稼働にのるなど、サービス価値や生産性を高める新たな事例が実現しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における連結売上高は14,447百万円（前年同期比8.6%増）、連結営業利益は613百万円（前年同期比1.3%増）、連結経常利益は636百万円（前年同期比1.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は369百万円（前年同期比6.3%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の経営成績の業況は以下のとおりです。

#### ① スチュワード事業

当事業は、ホテル・レストラン・テーマパークを主たるお客様として、食器洗浄をはじめとする厨房管理業務及び清掃業務を全国展開する当社グループの中核となるセグメントです。

当第3四半期連結累計期間においては、新規事業所12件を開業いたしました。依然としてインバウンド観光の需要が高い水準を維持しており、外資系ブランドを中心に積極的なマーケット参入による大型ホテルの開業が続いております。また、当第3四半期においては、人手不足を背景とした中、神社や病院、イベントのリユースカップ洗浄といった幅広いお客様からの受注、お引き合いを頂戴しました。引続きクオリティの維持を第一に全社一丸となってお客様の様々なニーズを支えてまいります。

また、社内においては営業グループの再編・人材投入を実施し、新規のお客様開拓の推進や既存のお客様への更なるサービス向上に努める体制を構築しました。併せて今期より取り組んでいる海外からの外国人正社員の育成や、SaaS導入による従業員エンゲージメント強化やシフト業務・労務関係業務プロセスの再構築など、職場環境や業務フローの改善による事業基盤強化によって収益力を高める取り組みについても順調に推移しております。

パート・アルバイトの純増人数は、人手不足の環境もあいまって第3四半期連結累計期間において354名と、前期実績に対して473名減少しております。引き続きリテンションを支えるコミュニケーションや教育・人材開発及び労働安全衛生に配慮したマネジメントに注力しております。

この結果、売上高は7,086百万円（前年同期比11.8%増）、営業利益は518百万円（前年同期比10.2%増）の増収増益となりました。

#### ② フードサービス事業

当事業は、従業員食堂・ホテル内レストラン・高齢者施設等給食運営の受託を全国で展開するセグメントです。

当第3四半期連結累計期間においては、新規事業所11件を開業し、また、通年の新規開業見通しは18件となりました。この中には大阪・関西万博にて大手食品メーカー様が提供するレストランプースの運営への参画や、近年力を入れているケアフード分野におけるサービス付き高齢者向け住宅の大型受注が含まれております。

社内体制強化の取組として新卒、中途入社社員向け衛生教育の強化、調理実務研修を実施、また特定技能人材の外国人雇用の受入れも行いました。

一方、米を筆頭に食材価格の高騰が顕著でありクライアントへの価格転嫁交渉を喫緊の課題として進めております。

この結果、売上高は3,346百万円（前年同期比15.2%増）、営業利益は88百万円（前年同期比5.9%減）となりました。

## ③空間プロデュース事業

当事業は、映像・音響・放送・セキュリティに関する設計・施工・販売・管理・メンテナンスに加え、BGM及び香りまで提供する空間プロデュース事業としてセグメントを構成いたします。

当第3四半期連結累計期間においては、引き続き金融業界のITV（監視カメラ／Industrial TV）及び周辺装置・業務放送設備・モニター等の更新需要が業績を牽引する形で収益性の改善に大きく寄与しました。他のトピックスとしては、オフィスBGM配信サービスとグリーンを組み合わせた空間演出事例の実現や、プロジェクター、スクリーン、ネットワークカメラなどを統合したAVシステムの導入とともにボイスリフト（広い会議室や講義室などで、話者の声を部屋全体に均一に聞こえるようにする音響システム）の構築事例など複合的な施工案件が実現しました。

一方、空間プロデュースセグメントは前期に大型案件があった反動で今期の業績を慎重に見ておりましたが、足元は堅調に推移しました。当第3四半期は、来期計画を念頭に各社事業活動の各論におよぶ議論をグループ経営ボードで深めたことは非常に有意義な機会でした。

この結果、売上高は4,025百万円（前年同期比0.9%減）、営業利益は185百万円（前年同期比15.5%減）となりました。

## (2) 当四半期の財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に対し、77百万円増加し、6,008百万円となりました。その主因は、現金及び預金205百万円の増加、受取手形、売掛金及び契約資産45百万円の減少、有価証券49百万円の増加、商品及び製品60百万円の減少、繰延税金資産80百万円の減少などによるものであります。

負債の部は、前連結会計年度末に対し、168百万円減少し、3,087百万円となりました。その主因は、支払手形及び買掛金5百万円の増加、未払金66百万円の増加、未払消費税等88百万円の減少、未払法人税等118百万円の減少、賞与引当金50百万円の減少、その他流動負債20百万円の増加などによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に対し、246百万円増加し、2,921百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点における当期の連結業績予想は、2025年5月13日に公表したものから変更ありません。（当該業績予想については、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。そのため、事業環境をはじめとする様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。）

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	906,589	1,112,366
受取手形、売掛金及び契約資産	2,040,173	1,994,946
有価証券	—	49,806
商品及び製品	545,094	484,995
仕掛品	27,254	12,525
原材料及び貯蔵品	17,587	17,927
短期貸付金	10,161	20,163
未収入金	5,539	5,533
その他	123,009	113,612
貸倒引当金	△462	△1,688
流動資産合計	3,674,946	3,810,189
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	983,950	987,780
減価償却累計額	△604,923	△627,087
建物及び構築物(純額)	379,026	360,692
土地	951,628	951,628
その他	233,664	262,507
減価償却累計額	△178,684	△196,423
その他(純額)	54,979	66,083
有形固定資産合計	1,385,635	1,378,404
無形固定資産		
のれん	13,311	8,519
その他	58,570	60,224
無形固定資産合計	71,881	68,743
投資その他の資産		
投資有価証券	538,668	575,464
繰延税金資産	104,920	24,750
その他	155,924	154,538
貸倒引当金	△852	△3,545
投資その他の資産合計	798,661	751,207
固定資産合計	2,256,178	2,198,355
資産合計	5,931,124	6,008,545

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	490,732	496,409
短期借入金	450,000	450,000
リース債務	15,427	9,650
未払金	835,075	901,523
未払消費税等	364,329	276,083
未払法人税等	200,945	82,305
賞与引当金	124,966	74,402
役員賞与引当金	11,866	7,470
その他	364,460	384,739
流動負債合計	2,857,802	2,682,583
固定負債		
リース債務	14,060	8,097
繰延税金負債	7,141	11,453
退職給付に係る負債	344,792	351,868
株式給付引当金	3,394	6,314
長期未払金	20,377	18,577
資産除去債務	8,101	8,148
その他	500	500
固定負債合計	398,366	404,960
負債合計	3,256,169	3,087,543
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	393,562	393,562
資本剰余金	279,271	272,046
利益剰余金	1,976,956	2,166,741
自己株式	△109,573	△102,327
株主資本合計	2,540,216	2,730,022
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	134,738	190,978
その他の包括利益累計額合計	134,738	190,978
純資産合計	2,674,954	2,921,001
負債純資産合計	5,931,124	6,008,545

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)
売上高	13,299,300	14,447,612
売上原価	11,039,985	11,990,715
売上総利益	2,259,315	2,456,896
販売費及び一般管理費	1,653,597	1,843,144
営業利益	605,717	613,752
営業外収益		
受取利息	1,545	1,426
受取配当金	9,955	11,841
受取賃貸料	8,268	4,865
雇用調整助成金	—	6,808
その他	14,252	12,547
営業外収益合計	34,022	37,490
営業外費用		
支払利息	6,787	8,885
支払手数料	1,391	1,184
為替差損	898	3,001
その他	2,855	1,279
営業外費用合計	11,933	14,350
経常利益	627,807	636,891
特別利益		
固定資産売却益	150	—
特別利益合計	150	—
特別損失		
固定資産除却損	121	46
特別損失合計	121	46
税金等調整前四半期純利益	627,835	636,845
法人税、住民税及び事業税	231,844	210,766
法人税等調整額	1,722	56,771
法人税等合計	233,566	267,538
四半期純利益	394,269	369,306
親会社株主に帰属する四半期純利益	394,269	369,306

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	394,269	369,306
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21,914	56,240
その他の包括利益合計	21,914	56,240
四半期包括利益	416,183	425,547
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	416,183	425,547
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2023年10月1日至2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	スチュワード 事業	フード サービス 事業	空間 プロデュース 事業	計				
売上高								
(1)外部顧客に 対する売上高	6,333,956	2,903,709	4,053,954	13,291,620	7,680	13,299,300	—	13,299,300
(2)セグメント 間の内部売上高 又は振替高	6,711	361	7,892	14,964	234,665	249,629	△249,629	—
計	6,340,667	2,904,071	4,061,846	13,306,585	242,345	13,548,930	△249,629	13,299,300
セグメント利益	470,586	94,367	219,973	784,927	22,846	807,774	△202,056	605,717

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、総務・人事・経理管理事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△202,056千円は、全社利益及びセグメント間取引消去等の額によるものであります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2024年10月1日至2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	スチュワード 事業	フード サービス 事業	空間 プロデュース 事業	計				
売上高								
(1)外部顧客に 対する売上高	7,071,184	3,346,161	4,021,728	14,439,074	8,538	14,447,612	—	14,447,612
(2)セグメント 間の内部売上高 又は振替高	14,958	512	4,137	19,608	232,515	252,123	△252,123	—
計	7,086,142	3,346,674	4,025,865	14,458,682	241,053	14,699,735	△252,123	14,447,612
セグメント利益	518,739	88,780	185,771	793,291	23,192	816,484	△202,731	613,752

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、総務・人事・経理管理事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△202,731千円は、全社利益及びセグメント間取引消去等の額によるものであります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	47,781千円	53,972千円
のれんの償却額	4,792	4,792

(重要な後発事象)

該当事項はありません。